

令和8年度「全国学力・学習状況調査」（令和8年4月実施）の結果について

Ⅰ 調査目的（要旨）

- 義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

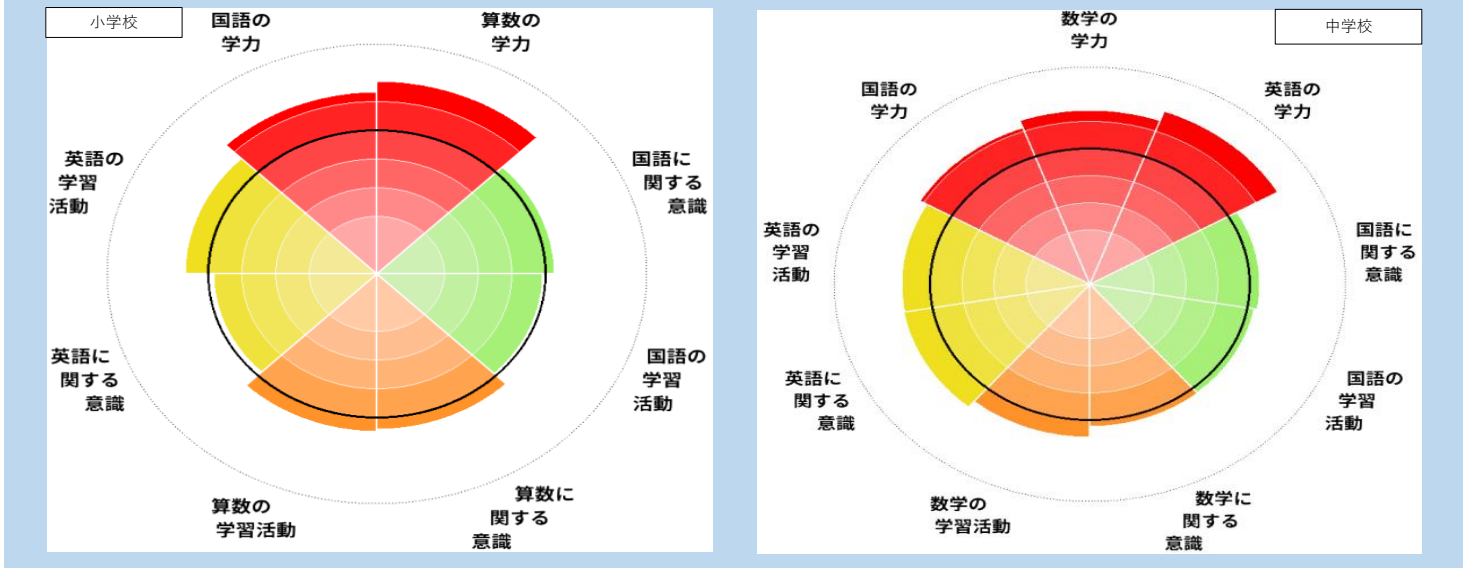
Ⅱ 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

Ⅲ 調査内容

- (1) 児童生徒：教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕、質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査） ※質問調査及び中学校英語は、CBT（Computer-Based Testing）で実施。その他はPBT（Paper-based Testing）で実施。
 - (2) 学校：質問調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）
- 【参考】令和9年度以降、小・中学校ともに調査をCBTに全面移行の予定。

Ⅳ 教科を中心とした学力・学習状況の結果

- (1) 教科を中心とした学力・学習状況（全国基準＝点線状の円）



- (2) 教科調査の推移（項目別の平均正答率等）

		小学校 第6学年								中学校 第3学年							
		(%)	R4	R5	R6	R7	R8	思考・判断・表現	記述式	R4	R5	R6	R7	R8	思考・判断・表現	記述式	
国語	武蔵野市		73(+4)	76(+7)	78(+8)	76(+6)	72(+7)	71.5(+7.4)	63.2(+9.3)	76(+6)	80(+8)	70(+9)	61(+4)	72(+4)	71.8(+4.2)	54.1(+4.1)	
	東京都		69.0	69.0	70.0	70.0	65	64.1	56.3	70.0	72.0	61.0	57.0	68	67.6	50.0	
	全国		65.6	67.2	67.7	66.8	60.9	60.1	54.9	69.0	69.8	58.1	54.3	63.9	63.7	45.5	
算数	武蔵野市		73(+6)	75(+8)	78(+10)	72(+8)	71(+8)	60.3(+8.6)	64.2(+9.9)	65(+11)	66(+12)	68(+11)	61(+8)	70(+8)	56.8(+11.0)	56.8(+11.0)	
	東京都		67.0	67.0	68.0	64.0	63	51.1	54.3	54.0	57.0	53.0	62	45.8	45.8		
	全国		63.2	62.5	63.4	58	56.4	45.4	48.5	51.4	51	52.5	48.3	57.0	39.1	39.1	
英語	武蔵野市																
	東京都																
	全国																

※（ ）内の数値は東京都との差を表す

※令和8年度の英語は平均IRTスコア 【IRTスコア=IRT（項目反応理論）に基づき、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定する。全国平均を基準として500で表す】

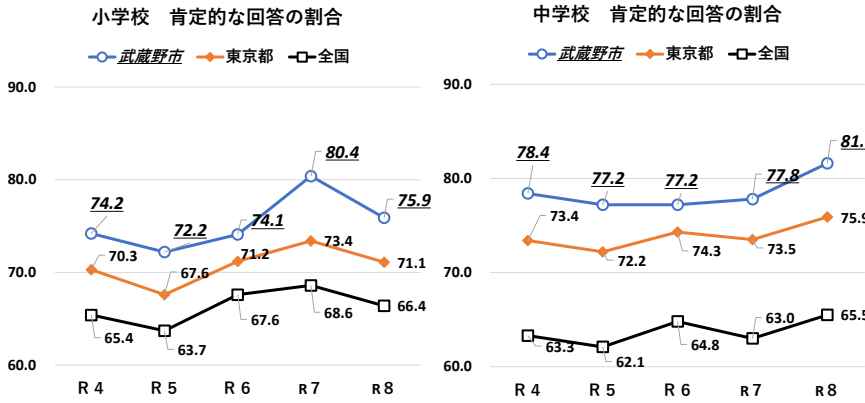
- (3) 無回答率が高かった問題の例と指導改善のポイント

最も高い無回答率		問題の概要		指導改善のポイント	
小学校 国語	14.0(−3.8)	文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	インガメ 14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるとき、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的にかつ個別的に捉えることが大切である。語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要である。文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていく。
	17.8				
	15.6				
算数	6.3(−1.7)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	表に示された数値から変化や対応の様子を捉えたり、グラフに示された点の並びに着目したりするなどして、二つの数量の関係を比例と仮定して考えられるようにした上で、表、式、グラフをどのように用いればよいかを説明する活動を取り入れることが考えられる。説明ができるようになるためには、見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法を表現したり、振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりすることが大切である。	文章を読んで要点を捉えた後、自分の考えをメモに整理し、簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことが大切である。生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが大切である。身近な環境問題に関わる意見文や平和な世界を築くために大切なことについて書かれた新聞への投稿文を読み、友達や読み手に納得してもらえよう自分の考えとその理由を書く活動などが考えられる。
	8.0				
	7.2				
中学校 国語	12.1(−4.6)	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的にかつ個別的に捉えることが大切である。語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要である。文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていく。
	16.7				
	19.8				
数学	23.6(−9.4)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的にかつ個別的に捉えることが大切である。語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要である。文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていく。
	33.0				
	39.6				
英語	6.8(−4.0)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的にかつ個別的に捉えることが大切である。語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要である。文章中の語句と語句との関係を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていく。
	10.8				
	14.6				

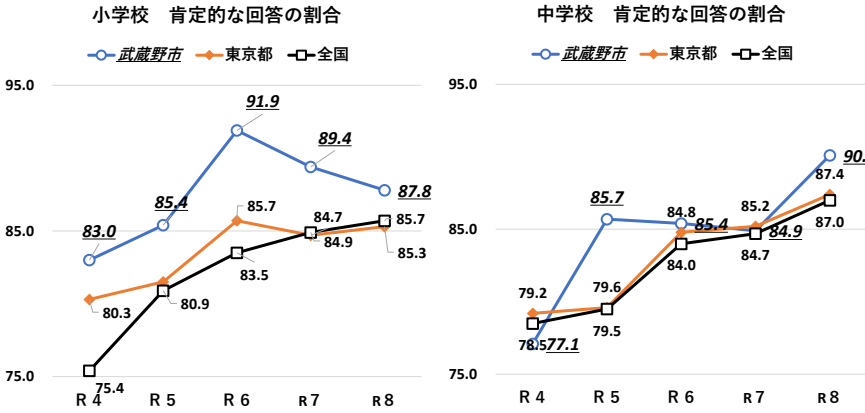
※指導改善のポイントは「令和8年度全国学力・学習状況調査報告書・調査結果資料（国立教育政策研究所HP）」を参考

- (4) 主体的・対話的で深い学び等に関連する児童・生徒質問紙調査の経年変化

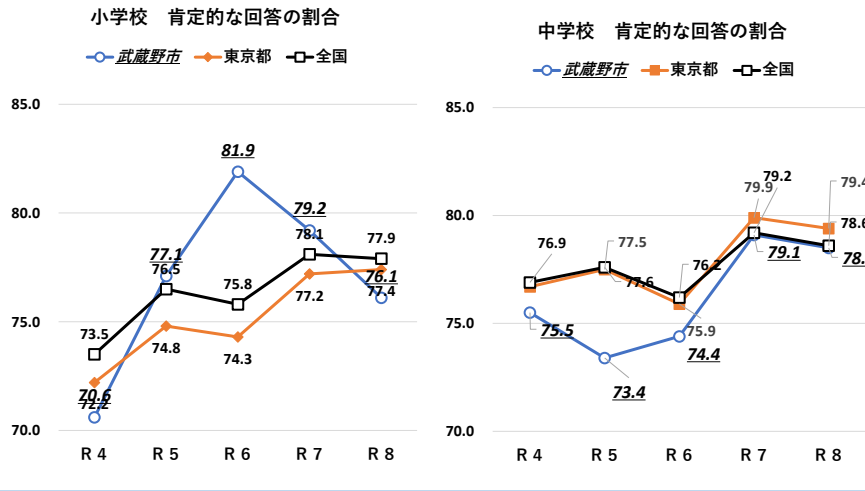
① 5年生／中学1、2年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



② 学級の児童・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



- ③ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



- (5) ICTを活用した学習状況に関連する児童・生徒質問紙の結果

		肯定的な回答の割合（％）			
		肯定的な回答の割合（％）		肯定的な回答の割合（％）	
		R8	R7	R8	R7
小学校 第6学年	武蔵野市	85.8	89.7	87.0	93.6
	東京都	81.0	84.7	85.3	90.8
	全国（公立）	79.1	81.8	84.9	89.8
中学校 第3学年	武蔵野市	91.4	88.0	92.2	93.5
	東京都	86.9	86.5	91.2	92.1
	全国（公立）	84.8	83.6	90.9	91.5
		④あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか			
		R8	R7	R8	R7
小学校 第6学年	武蔵野市	75.4	79.2	78.0	90.6
	東京都	72.3	73.8	85.3	82.7
	全国（公立）	69.5	69.3	84.9	76.7
中学校 第3学年	武蔵野市	75.4	67.6	88.4	88.1
	東京都	72.2	66.9	84.3	82.6
	全国（公立）	69.4	63.3	80.0	76.6

- (6) 各種の結果を踏まえた分析

(1) (2)	小・中学校ともに全教科で東京都・全国と比較して平均正答率が高い。過去5年間に於いても同様の結果が確認できる。英語はIRTスコアが導入され、東京都・全国を上回る傾向が顕著である。
(2)	思考・判断・表現と記述式の下分野において、小・中学校ともに全教科で、東京都・全国平均を大きく上回っている。授業の中で、他者の意見を取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりする協働的な学習や書く活動の充実が図られている。
(3)	無回答率は東京都・全国を下回り、何らかの記述をしている。記述式で無回答率が上がる傾向については、理解したことを整理し、自分の考えをまとめる活動を継続して取り入れていく必要がある。
(4) ー①	中学校では昨年度より上昇したが、小学校では低下した。自己表現力を育むため、自分の考えを伝える機会に、資料や文章、話の組立てを工夫して発表する言語活動の充実をさらに図っていく必要がある。
(4) ー②	中学校では昨年度より上昇したが、小学校では低下した。学級の児童・生徒との話し合いの活動の場で、自分の考えを深めたり広げたり、他者の意見を取り入れたりする協働的な学習の場の設定が必要である。全員が参加できる場づくりや役割分担、議論のルール化、要約の練習を取り入れることも考えられる。
(4) ー③	自分と違う意見を考えるのは楽しいと感じる児童・生徒が減少した。異なる意見を受け止め多様な意見を尊重するには、心理的に安全な場づくりと根拠の共有が欠かせない。開かれた思考や批判的思考、多様な視点の受容を育みながら、建設的な議論へ導く工夫が必要である。
(5)	小・中学校ともにICT機器を使って情報を収集、整理し、プレゼンテーション（発表スライド）を作成することができると答える割合が、東京都・全国平均を上回り、85%以上となっている。ICT活用の定着が進み、成果が現れている。令和7年度と比較すると、中学校でデジタル情報活用の上達が進んでいる一方で、小学校においては低下している。情報を整理する（図・表・グラフ・思考ツール等）ことについては、東京都・全国平均を上回っているが、小・中学校ともに75%台となっており、思考ツール等の活用を取り入れていく必要がある。